

大基委大評第 271 号

平成 23 年 3 月 11 日

同 志 社 大 学
学 長 八 田 英 二 殿

財団法人 大学基準協会
会長 納 谷 廣



貴大学の「完成報告書」の検討結果について（通知）

標記に関し、本年度、貴大学よりご提出頂きました「完成報告書」につきましては、大学評価委員会において慎重な審議を行い、別紙の通り検討結果をとりまとめましたので、ここにご通知申し上げます。

添付資料 「完成報告書検討結果（同志社大学）」

以上

＜ 完成報告書検討結果（同志社大学政策学部） ＞

[1] 概評

2006（平成18）年度の本協会による相互評価に際し、貴大学政策学部は、評価資料を提出する4月段階において申請資格充足年度（標準修業年限＋1年）を経ておらず、教育・研究活動に関する評価を十全には行えなかった。よって当該学部の完成時の状況を、完成報告書として取りまとめることを求めた。

今回提出された完成報告書からは、政策学部が、「総合的な観点から現代社会の問題、グローバルな政策課題を発見」し、それを解決できる人材を育成することを目標としており、「個別の学問分野にとどまらず、社会諸科学相互の連携による学際的な教育研究」をめざしていることが認められた。

カリキュラムは外国語を含む教養教育科目、専門教育科目などが相応に配置され、専門の講義科目は系統性に配慮して提供されており、導入教育や履修指導も適切に行われている。テーマごとの履修モデルを示す「政策レファレンス」は工夫のある取り組みとして評価できるほか、2年次の秋学期から始まる「卒業研究プロジェクト」は注目すべき取り組みである。

1年間の履修登録単位数の上限は適切に設定されており、学生による授業評価も相応に実施されている。なお、FD委員会は学部には設置されているが、学部独自の取り組みについては具体的な記述がないことから、さらなる点検・評価が望まれる。

定員管理は適正に行われているが、教員1人あたりの学生数が41.0人となっており、卒業論文を必修とする学部としては多いので、改善が望まれる。

以上により、改善が望まれる点はあるものの、おおむね目標は達成されていると認められる。

[2] 今後の改善経過について報告を求める事項

なし

以上

＜ 完成報告書検討結果（同志社大学文化情報学部） ＞

[1] 概評

2006（平成18）年度の本協会による相互評価に際し、貴大学文化情報学部は、評価資料を提出する4月段階において申請資格充足年度（標準修業年限＋1年）を経ておらず、教育・研究活動に関する評価を十全には行えなかった。よって当該学部の完成時の状況を、完成報告書として取りまとめることを求めた。

今回提出された完成報告書からは、「文化と人間を対象とする問題発見・問題解決」を「科学的方法」によって行う専門家を養成するという、特色ある目標を掲げていることが認められる。

カリキュラムは教育目標に対応して、実験・演習を重視しており、履修者間で行う「ジョイント・リサーチ」がそれにあたる。その他の専門教育科目や教養教育科目、外国語科目もおおむね適切に設定されている。

導入教育やリメディアル教育も相応に実施され、履修指導やシラバスの整備、年間履修登録単位数の上限設定も適切である。授業評価アンケートのフィードバック、結果の公表も行なわれている。ファカルティ・ディベロップメント（FD）については、学部の「自己点検・評価委員会」において、同委員会の委員に、委員以外の自主的に参加する教員も交える形式で活発な議論が展開されている。なお、成績評価にも細やかな配慮が認められる。

定員管理、教員組織にも特段の問題は認められない。

以上により、おおむね目標は達成されていると認められる。

[2] 今後の改善経過について報告を求める事項

なし

以 上